

# 品川ストリングオーケストラの チェココンサートツアー

関東地区チェコ科指導者 白井洋治

2016年8月26〜9月4日、品川ストリングオーケストラの生徒40名(小6〜大学生)とツアースタッフ13名で、6回目の渡欧ツアーを行いました。今回も「教会の響き」「歴史あるホール」「現地の子どもたちとの交流、共演」がすべて実現でき、さらにドヴォルザークの子孫のみなさんにも会うことができました。観光もたくさんあり、大変充実した10日間となりました。

## Shinagawa String Orchestra Concert Tour 2016

現地時間8月26日18時30分にウィーン空港に到着。チェコから迎えに来てくださったガイドのオンドレイ (ondrej)さんと今回のツアー全行程をともにするバス2台に分乗し、チェコ共和国リトミシュル市へ出発。23時45分、今夜の宿泊場所であるリトミシュルの教育専門学校寄宿舎に到着。バスから各部屋へ、人とスツーカーと楽器の大移動！就寝は深夜1時を過ぎました。寄宿舎の入口では、遅い時間の到着にもかかわらず、今回お世話くださったフィンダ (Finda) 志保子さん、安東和民さんが、お出迎えのため待っていてくださいました。

2年近くの準備・練習を重ねて、チェコにやってきました。今回のこのツアー、国際音楽祭ヤング・プラハに参加できたのは、品川ストリングオーケストラの卒業生でチェリストの印田陽介さんが、プラハ音楽院留学中からのご縁であるヤング・プラハ実行委員会のフィンダさんと、ヤング・プラハ日本事務局長で、リトミシュル市親善大使の安東さんが、未来ある子どもたちのために、力一杯協力くださったお陰です。



8/26 (ウィーン→リトミシュル)、8/27 (リハーサル、観光)、8/28 スメタナ劇場、8/29 (ヘジマヌーヴ・ムニェステツ) 教会コンサート、8/30 (プラハ)、8/31 (ヴィソカ) ルザルカ荘、9/1 (プラハ) ドヴォルザークホール、9/2 (チェスキー・クルムロフ、リンツ)、9/3 ハイリゲンシュタット→ウィーン



スメタナ劇場でのリハーサルでは、弦楽団のメンバーのほとんどが合唱と合わせるのは初体験でした。合唱団コスの美しい歌声と声量に、びっくりしました

でも有名な地元の教育学校合唱団コス (KOS) とのジョイントコンサートでした。私たちの伴奏でエダ君がヴィヴァルディの「四季」から「夏」を弾き、合唱団コスはスメタナの生地にふさわしく、楽しく華やかなスメタナのオペラ「売られた花嫁」と日本の曲「さくら」を演

奏しました。スメタナ劇場は古い木造建築の美しいホールでしたが、舞台が狭かったため、舞台前の座席を取り払い、オーケストラスペースを作ったので、観客に囲まれるような場所での演奏となり、とても緊張しました。それでもみんながんばって演奏し、最後は合唱団コスと一緒にスタンディングオベーションに包まれました。この日は、リトミシュル市と交流の深い松本市より、松本市長をはじめ、スメタナ・リトミシュル会の方々(団長はこの8月まで長く本会の監事を務めていただいた久保田嘉信様) が来て応援してくださいました。我々も両市の友好に多少なりとも役立てたのではないかと思います。

8月29日、第2回目のコンサートは、リトミシュルから西に50キロほど離れた小さな町、ヘジマヌーヴ・ムニェステツの教会で品川ストリングオーケストラの単独コンサートでした。このコンサートは地元の音楽祭のラストコンサートで、さらに薬害で病気に苦しむ赤ちゃんのためのチャリティーコンサートでもありました。この日も大きな教会が満席になりました。コンサートの前半では、ヴィヴァルディの「2つのチェロのためのコンチェルト」を弦楽団の小生から高校生メンバー3組6人が楽章ごと、交代でソロを受け持ち演奏しました。教会の後ろから満場のお客様の中を歩いて入場する小学生が小さくて可愛かったように、それだけでも皆が大拍手。演奏も各楽章に個性があり、第3楽章になると高度なテクニクが入り、大いに盛り上がりました。教会の美しい響きと温かい目のお客様に囲まれ、忘れられない素晴らしい演奏会となりました。コンサート後は、皆さんの手作りケーキやお料理をいただきました。その後バスに乗り、いよいよプラハへ向けて出発。

# Shinagawa String Orchestra Concert Tour 2016

チェコで最も大きな、プラハの  
聖ヴィート大聖堂をバックに



国際音楽祭ヤング・プラハ創立25周年記念演奏会（浜離宮朝日ホール、11月16日、18時開演、全席自由5,000円）にトマーシュ・ヤムニークさん、そして品川ストリングオーケストラも出演します。弦楽団は、今回のツアーでも演奏したモーツァルトのティヴェルティメントK136を演奏します。

我々の十八番  
木節」。八木節は  
「さくら」と「八  
手をいただきました  
た。アンコールに  
演、たくさんの拍  
先生ともども熱  
「弦楽セレナーデ」  
を指揮の印田礼二  
演、たくさんの拍  
手をいただきました  
た。アンコールに  
「さくら」と「八  
木節」。八木節は  
我々の十八番

ンピック女子体操の金メダリスト、ヴェ  
ラ・チャスラフスカさんが亡くなられた  
という悲しい知らせがありました。親日  
家としても有名で、我々のコンサートを  
とても楽しみにされていたそうです。  
9月1日、いよいよ本番です。コンサ  
ート開演に先立ち、チャスラフスカさんへ  
の黙禱が行なわれました。そしてコン  
サートの開演です。前半はエダ君との  
「夏」、2回目ですがさらにレベルアップ、  
彼の個性が溢れ出る演奏に大きな拍手、

アンコールに弾いたバガニニは素晴らしい熱演でした。次はドッペルコンチェ  
ルト、ホールにヤムニークさんと印田陽  
介さんのバロック的なボウイングの音が  
響きわたり、その音に触発され、オケも  
素晴らしい演奏でした。演奏途中に舞台  
上のランプがショートしてすさまじい音  
をたてて爆発するというアクシデント、  
これには生徒全員肝を冷やしましたが、  
演奏が中断することもなく無事終了。  
いよいよ後半、芥川也寸志の弦楽のた  
めの三章「トリプ  
ティーク」、チャ  
イコフスキーの  
「弦楽セレナーデ」  
を指揮の印田礼二  
先生ともども熱  
演、たくさんの拍  
手をいただきました  
た。アンコールに  
「さくら」と「八  
木節」。八木節は  
我々の十八番

ハッピーを着て、鉢巻きを締め、拍子木を  
叩きまくる若者一人。「やっ！」のかけ  
声で始まり、「やっ！」で終わる大変楽  
しい曲です。これは大いに受け、2度も  
演奏しました。打ち上げは、お世話になっ  
た音楽祭委員の皆さんとヤムニークさ  
ん、エダ君も交え、とても楽しい時間  
でした。  
次の日は街全体が世界遺産のチェス  
キー・クルムロフを観光し、リンツのホ  
テルに1泊後、9月3日、オーストリア  
航空、ウィーン（成田の記念すべき最後  
の直行便）に乗り、大事な思い出と貴重な  
体験とともに無事に帰国しました。  
お世話になったヤング・プラハのフィ  
ンダさん、安東さん、ヴェロニカさん、  
ガイドのオンドレイさん、日本から同行  
下さった添乗員の樋口さんをはじめ、た  
くさんの方のご協力をいただき、このツ  
アーが無事終了できたことを、心より感  
謝しております。参加した子どもたちの  
心に、一生の思い出として深く刻まれた  
ことと思います。



ドヴォルザークもチェコ・フィルを指揮したことのあるドヴォルザークホール。  
感慨に浸りながらのコンサートになりました



小さな町の教会でのコンサートも大入り満  
員となりました



右の方がドヴォルザーク3世です

で、両都市を行き来している様子です。  
日本語で「ごります」など狂言の言  
い回しも随所に、ユーモアたっぷりに子  
どもたちを楽しませ、全行程で我々をサ  
ポートくださいました。日本人以上に信  
頼できるチェコ人でした。

いよいよプラハでのコンサートです  
が、その前に観光も大事な社会勉強の一  
つ。プラハから南南西50キロぐらいの所  
にある、ドヴォルザークが晩年を過し  
たヴィソカ (Vysoka) 村のルザルカ荘  
(Villa Rusalka) でドヴォルザークの子孫  
と対面することができました。今もその  
地で暮らしているドヴォルザークのお孫  
さん3世84歳、そのお子さんの4世、ま  
たそのお子さんに当たる16歳の5世で  
す。普段は入ることのできない場所  
ですが、今回特別に我々のために開放し  
いただき、ドヴォルザークが住んでいた  
家に入り、ドヴォルザークが愛した窓か  
ら見える今も変わらぬ景色を堪能しまし  
た。お庭では3世のお祖父様手製のケー  
キと庭で取れるリンゴ、胡桃、プラムな

どをご馳走になりました。お礼に弦楽合  
奏で「ユーモレスク」をプレゼントしま  
した。その演奏を聴き、お祖父様は涙を  
ためて喜んでくださいました。

8月31日、憧れのルドルフ・フィンナムのド  
ヴォルザーク (Rudolf Finnik) ホー  
ルでの最終コンサート前夜、チェコで有  
名なチェリスト、トマーシュ・ヤムニ  
ーク (Tomáš Janáček) さん（プラハの春コ  
ンクールで遠藤真理さんと競いあつた方  
です。1位なしの2位ヤムニーク、3位  
遠藤真理）と印田陽介さんのチェロドッ  
ベルコンチェルトのリハーサルをしまし  
た。ヴァイオリンのエダ君はお母様が日  
本人ということもあり、日本語がペラペ  
ラで生徒たちとも、あつと言う間に国際  
交流ができましたが、ヤムニークさんは  
大人でスペシャリストでしたから、初め  
はとても緊張しました。でも、雰囲気  
が柔らかく、気さくな感じでした。リハーサルを  
し、我々の緊張を解いてくださいました。  
実はコンサート前に、音楽祭に縁の深  
いチェコの英雄、1964年の東京オリ